



診察室

ざくばらん

判断する能力

確実に低下

高齢者の自動車運転

「車がないと、生活できない。生きていけなくなる」とまで言う。が、いつまでも、車に頼った生活を続けられるものか。

患者さんは69歳のYさん。奥さんが、「この人、認知症かも。センセ。ゼッタイ車の運転をしないように言い聞かせて」とは、難しい注文だ。Yさんは、また、事故を起こしそうになったら怖い。が、「俺だけ悪いのではない」と憤然としている。もの忘れはあるが、認知症ではない。「認知症の人と家族の会」の調査によると、認知症高齢者の約15%が自動車運転で事故を起こした経験があり、事故未遂も含めると3割近くが危険な目に遭っていたという。何

度かコワイ目に遭った奥さんは、最近もの忘れが多くなったYさんが認知症になったに違いないと思うのだ。

でも、ホントの認知症の患者さんが車を運転すれば、事故の危険性が3割などということはあるまい。例の厚生労働省の不正調査問題に見るように、統計の取り方によっては違う結果が出る。だいたい、75歳以上の認知症の人は、運転免許を取り消されてしまう。そうでなくとも、認知症と診断されれば周りが運転を許さない。事故の危険性が3割というのは、認知症と診断される前の軽度認知障害の患者さんたちが対象だったのかもしれない。

そつだ。ワッシーは、Yさんのような年相応のもの忘れだけという人だって、運転は相当にアブナイと思うのである。年を取るにつれ、脳も体もガタがくる。認知判断、注意、運動の能力は衰え、運転能力は確実に低下する。

車は走る凶器だ。Yさんよ、ここは、「仕事を取り上げられた。次は、バカにして車まで取り上げるのか」などと、ひがむな。交感神経の休まるスローな生活も悪くない。落ち着いた新鮮な世界を楽しめるかも。

(石黒修三 しいしぐろクリニック
・脳神経外科専門医、金沢市在住、
射水市出身)

イラスト・野畑桃花

